# 千年の森便り No.250

2024.10.31



ちば千年の森をつくる会

http://toyofusajima.html.xdomain.jp/

代表　福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp


## 活動の記録

### 10 月 14 日（月祝）天候 晴れ

7 月の夏のきのこ観察会に続き、今回は秋のきのこ観察会を公開行事として開催しました。雨の活動日が 2 回続いていたのでお天気が心配でしたが、今回は予報どおりの晴れ！（一時は雲が広がりドキッとしましたが･･･）。秋の日差しが降り注ぐ中、豊英島は多くの参加者をお迎えして久しぶりに賑やかになりました。

講師には、7 月の観察会に続いて、元千葉県立中央博物館の吹春先生ご夫妻と硬いきのこにも詳しい中島先生においでいただき、今回も豪華講師陣によるきのこ観察会となりました。観察できたきのこは、残念ながら量は少なかったものの、ご参加いただいたみなさんのおかげで多くの種類のきのこを確認することができました。

参加者は、講師 3 名、一般参加 23 名、会員 8 名の計 34 名でした。講師のみなさま、ご参加いただいたみなさま、畑で採れた里芋などを差し入れていただいた坂本さま、ありがとうございました。

### ○吊り橋を渡って豊英島できのこ探索

吊り橋の手前で渡る順番待ち

吊り橋の高さは 10m 以上

島に渡って講師の紹介

ヌメリガサ科のきのこ

ホウロクタケ（表）

ホウロクタケ（裏）

ウスタケ

カイガラタケ

### ○きのこの同定と講師による解説

きのこが集まってきた

吹春先生による解説

解説はきのこＴシャツで

これ食べたことある方は？

ベニタケの仲間はもろい

これは覚えておかなくちゃいけない

中島先生による解説

硬いきのこもいっぱい集まった

**〇吹春先生による軟らかいきのこの解説**

吹春先生からは、千葉県で見られる代表的なきのこを主に胞子の色で分けた資料に基づき解説がありました。ベニタケの仲間（ほとんど名前がつかない、きのこはもろく、縦に裂けない）、クロハツの仲間（ニセクロハツは、傷をつけるとヒダが赤くなりその後黒くならないが、千葉では採れていない）、ウスヒラタケ（食べられる、タナ型、トキイロヒラタケは学名がなくなった）、ヌメリガサ科（ヒダが蝋質でちょっと厚ぼったい）、ミネシメジ（ヒダの間が広く石鹸臭がある）、ツエタケ（最近は、コブリビロードツエタケとツエタケの仲間に分類）、タマゴタケ（低標高地のサトタマゴタケと高標高地のタマゴタケに分けられた、サトタマゴタケは美味しくないという話が出た）、テングタケの仲間（サトタマゴタケのほかにドクツルタケ、ツルタケ、オオツルタケ、カバイロツルタケ、フクロツルタケ、コテングタケモドキ、シロオニタケと見られるものが採取された）、ウラベニガサの仲間（キイボカサタケ）、フウセンタケの仲間（胞子が鉄サビ色）、モエギタケ科（ニガクリタケは肉が黄色）、ヒトヨタケ科（ミヤマザラミノヒトヨタケ、ヒダの先から溶けていき上の胞子の散布をジャマしない）、イグチの仲間（ヤマドリタケモドキ、傘の裏がヒダのキヒダタケ、キクバナイグチ、アカヤマドリが採れた）などの解説がありました。解説ありがとうございました！「これで説明合ってますかね？」（福島）

**〇中島先生による硬いきのこの解説**

中島先生の解説はホウキタケからスタートしました。ホウキタケの仲間（名前がつかないものが多い、全体で胞子をつくる）、硬いきのこでは一番記録が多いのがカワラタケ（今回も採ってきた方は誰もいない･･･と言いかけましたが、今回はちゃんと採ってきてありました、複合種と言われているそうです）、クジラタケ（ホウロクタケに似るが裏の穴が丸い）、ホウロクタケ（クジラタケに似るが、裏の穴が角ばっている）、チリメンタケ（裏の穴が放射状で長方形）、ネンドタケモドキ（上に剛毛あり）、ヒイロハリタケ（針の表面に胞子をつくる）、ラシャタケの仲間（落枝の裏側で確認、菌根菌）、ダイダイヤワツツアナタケ（仮称、根状菌子束を持つ）、アセビコウヤクタケ（仮称、生きているアセビの枝に見られる）などの解説をしていただきました。観察する場合は、上からと下からの両方から観察することが重要とのことです。

また、子嚢菌については、大部分はカビだがグループとしては多数派、ひとつの担子器に８個の胞子を付けるものが多い。環境条件によってきのこの状態とカビの状態に変化するものがあるとのことでした。

当日のメモから書き起こしているのですが･･･やはり難しい💦（福島）

## ○きのこリスト

中島先生からのきのこリストとコメントです。

一通り私の作成分のリストができましたので、本メールに添付してお送りいたします。

こちらの URL からも閲覧可能です。全部で 138 件になりました。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202410&search_on=tags

現場では「ヒモツキコメバタケ」と同定して解説したものについて、顕微鏡で胞子に疣があることが分かりましたので訂正いたします。以前からトレキスポラ属の未記載種ではないかと思っていたものでした。

また、ポロテレウム・フィンブリアタム *(Porotheleum fimbriatum*）というきのこがあったのですが、これはものすごく珍しいものではないかと思います。

（エクセルのリストは参加者にメールで送付済み、ご覧になりたい方は上記 URL からご確認ください）

＊吹春先生のきのこリストは、次の千年の森便り（11 月下旬発行予定）に掲載しますのでお楽しみに。

## ○豊英島のキノコ～拡大して見ると～　（木原正博さん）

写真 1　コブリビロードツエタケ

「触ってみて下さい。傘の上もザラザラしますよ」吹春先生が仰った時、うわー触らんといて～と心の中で叫んでました。同定会に提出したコブリビロードツエタケ（写真 1）は、後で傘上の微細な繊毛を顕微鏡観察しようと思っていたので。先生に促された参加者のお一人は触ってみて「ん？分からん」と言った。そうでしょうとも。微細なんです。100 倍に拡大するとこう見えます（写真 2）。僕は顕微鏡観察が好きです。拡大すると全く異なる姿が見えてくるもので。もう一つ例を。ヒイロハリタケ（写真 3）。中島先生が紹介されたものです。キノコに少し慣れた方だと、あーヒイロタケの菌糸だろうと思って逆にスルーしてしまいそう。でもこれをルーペで拡大するとイボのような突起が見えます（写真 4）。このイボ一つをさらに顕微鏡で拡大するとこんな風に（写真 5）。え？それがどうした？まあ、そうですね。でも、豊英島のキノコ達、拡大して見ると、さらに魅力も楽しみも深まる、というお話でした。

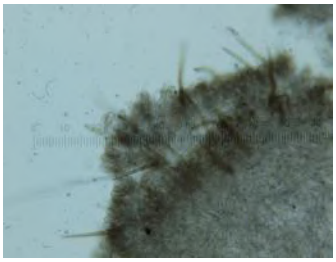

写真 2

写真 3

写真 4

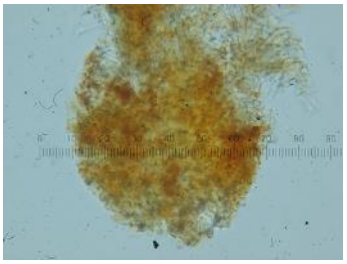

写真 5

## ○野生きのこと付き合う

同定会では吹春先生に「坂本さん、これは食べた事がありますよネ」と「味はどうでしたか」と度々いじられました。食用きのこを知ろうと思ったのは野生きのこで食費を浮かせようとした訳だけではありません。それ以前に野生の食用植物（山菜）に興味があって 100 種くらい試食しました。自然観察会の植物案内では、名前だけで無く食べられるものについて食感や味についての感想も混ぜると参加者の反応が良かったので、きのこもその延長線上の行動です。試食したのは 30 年前からの 10 年間くらいで最近は中断しています。

今まで試した野生きのこで味が良かったのはシイタケ、マイタケ、ヒラタケ、エノキタケ、ナメコなどです。これらは全て木材不朽菌に分類されるもので、人工培地で栽培可能です。空調設備の整った巨大施設では大量の周年栽培が可能で、スーパーの安売り目玉商品になる程ですが、その歴史は浅く大手企業のホクトが 1964 年、雪国まいたけが 1983 年創立ですから TV の普及と同時代となります。美味しくても人工栽培出来ず、店頭に並ばない外生菌根菌もありますが、誰もが危険を冒して試食の必要は無いと思います。待っていれば工場産のマツタケが出回るかも知れません。（坂本）

**○キノコは一期一会　（関谷大樹さん）**

はじめまして。千葉菌類談話会（以下「千葉菌」）に所属しております関谷と申します（…といっても幽霊部員みたいになってしまっていますが汗）。

コロナの前ですから４、５年ほど前からでしょうか、千葉菌の観察会をきっかけにキノコ観察（採取？）に出かける機会が増え、最近は山梨のほうまで出かけるようになりました。ガソリン代も上がったので無駄に浪費生活に入っている気がします…。

さて、元々、千葉菌のほうでこちらの活動に参加されている方がいて、その方の会報への寄稿で観察会を開催されていることは存じ上げておりました。10 月の観察会では毎年のようにコウタケも観察されているとのことで、一度参加してみたいとは思っていたのですが、なかなか自発的に参加の意思表明をする機会もなく…。そんな中、会の直前（！）に吹春先生から開催のご案内をいただき、参加させていただいた次第です。

私事ではございますが、最近は土日は何かしらの用事が入っており、特に三連休ともなるとまず予定が空いていることなどないのですが、今回はエアポケットに入ったようにすっぽりと予定が空いていて…。これは「天命」だと思いました（笑）

集合場所からは戸塚様に同乗させていただき、普段は渡れない豊英ダムを車で渡り、これまた普段は、まず入れない島に入りました。それだけでも希少価値の高い経験だったと思います。島内は歩行できる場所は隈なく徘徊させていただいたつもりですが、残念ながら、お目当てのコウタケは影も形もなく…。今年はやはり気候がずれているのかもしれません。キノコは一期一会ですから、これもまた、そういうご縁なのでしょう。コウタケを拝むのは来年以降の課題として残しておきたいと思います。また来年、機会があればよろしくお願いいたします。

最後に、直前までバタバタでご面倒をおかけした福島様、同乗させていただき新しい縁をいただいた戸塚様、誠にありがとうございました。このご縁を大事に、またの機会によろしくお願いいたします。

**○初めてウスタケに会うことができました　（清水（佐野）洋美さん）**

はじめて豊英ダムの森に入りました。元の丘陵の尾根が浮島のように残ったという成り立ちも初めて知り、その森を守る活動があるということも、今回初めて知りました。きのこは思ったより少なく、探すのにやや苦労しましたが、初めてウスタケに会うことができまして、うれしかったです。

膝の高さに黒くすすけて残ったホテイチクは、鹿の食べた残がいだとうかがいなんとなく草花が少ないのも、シカの食圧なのかなと思いました。イノシシの掘り返し跡もあちこちでみられ、浮島までわざわざ食べに来る彼らの事情も想像できまして、森の保護の難しさの一端にふれることができました。

同定会ではいろいろなきのこを見ることができて勉強になりました。ありがとうございました。

**○皆さんのレベルが凄すぎます　（江田隆正さん）**

天気に恵まれてついつい島を一周してしまいました。帰り道の渋滞で居眠り運転が怖く休みやすみで無事帰宅できました。もう、無理はできないですね。

昨日いただいたリーフレット「豊英島の食べられるキノコ」、これは松田さんの手作りですか？ものすごいレベルですよね。中島さんもアマチュア研究家と言うことですが皆さんのレベルが凄すぎますよ。

毎回感心していますが、今回はさらに一般参加の方々のオタクぶりに感服です。また次回、体力と日程が合えば参加したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

**〇バカマツタケがない！！**

今回のきのこ観察会でとても残念だったこと。それは、きのこの豊凶に関係なく、秋のきのこ観察会では必ず採取されていたバカマツタケが今回は採取されず、ご参加いただいた皆さんにお見せできなかったことです。今シーズンは 10 月に入っても気温が高い日が多かったので、きのこたちもいつ出たらよいか分からなくなっているのかもしれません。もしかしたら、今頃出ているのかな～（福島）

## お知らせ

**〇次回の定例活動は 11 月 17 日（日） です。**

ホテイ岬地区整備、植生保護柵補修、チェーンソー操作体験と危険木伐採を予定しています。チェーンソーをお持ちの方はご持参ください。今年、セブンイレブンの助成金で購入した電動チェーンソーも初登場の予定です。

島に入る際は、ヤマビル、ダニ対策と、安全のためにヘルメット着用を忘れずに！

ご参加をよろしくお願いします。